

用水季報

令和3年7月号
発行元：美しい水の会
連絡先 090-1993-5903
<http://bunji-yosui.org/>

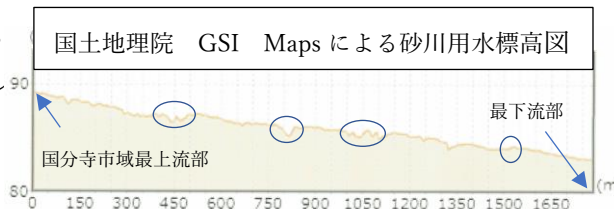


用水通水状況： 令和3年4月～同年6月末までの間、砂川用水は4月22日～4月23日（2日間）、5月2日～5月10日（9日間）、6月7日、6月28日～30日（3日間）の合計15日間止水しました。止水を原因別に見ると、立川市の護岸工事で2日間、小平市の護岸工事で3日間、立川市のゴミ詰まりによる止水が10日間でした。

令和3年4月～6月の砂川用水美化活動

「定期作業」として4月2回、5月4回、6月3回の美化活動を行いました。4月から10月末までは、草の成長とのせめぎあいです。3月に刈り込んだ箇所も4月の末には太ももの高さまで伸び、特に蔦類の成長は著しく、1か月手入れしなければ5mほど伸び、草や笹を覆い隠すほどにまで成長します。そのため、上図にある9か所で気が付いた時に美化活動をする「気づき清掃」の回数が増え、毎回短時間ですが、会員各自が4月から3か月で41回も行っています。

驚いた！砂川用水の構造 最近、国土地理院の地図に出会いました。早速、砂川用水の流れを調べ、その構造の精緻さに改めて驚かされました。右図は、地図上をPCでなぞって判明した砂川用水の標高図です。最上流部は立川市若葉町との市境で標高は89.1m、最下流は二ツ塚バス停近くの公衆電話ボックス裏手で標高84.1m、用水全長が1.8km



と表示されました。何度も試しましたが、1.8kmある用水の勾配はきわめて精度の高い約0.28%で、驚くほど精緻な造作です。玉川上水は四谷大木戸までの42キロを標高差約91m（勾配0.22%）で開削され、その技術が高く評価されていますが、砂川用水もこの玉川上水開削技術を利用したに違いないと思いました。

この用水（旧野中新田村分水）はふるさと文化財課の年表では、用水開削の幕府への願いが出された享保13年（1728年）から始まり翌年4月には開通とのこと。申請がいつ認可されたか不明ですが、申請後わずか半年で1.8kmの水路を造り上げたことになります。どれほどの数の農民が当時の農耕機材（鍬・鋤などだったのでしょうか）で開削作業に係わり、どのようにしてこの精緻な勾配を造り出したのか、その苦勞など不明ではありますが、すさまじい先人の開削への熱意と素晴らしい技術と膨大な労力があってこそ造ることができた用水であるといえます。さらに、今日までこの用水を守り抜いた先人のご苦勞に頭が下がります。また、日頃から平坦と思っていた五日市街道も国分寺市内域の西と東

で約5mの標高差があることには驚かされました。これほどの高低差があるとは実感できませんが、「東の方に荷車引いて野菜運ぶのは楽だったけれど帰りが難儀だった。」という、長老からのお話を思い出しました。国分寺市の武蔵野台地は東南に傾斜していたのでした。ちなみに、図面上に丸印を付けた凹み部分は、上流から並木町公園、並木公民館親水施設、ヤマモモ公園であり、最後の丸の部分の部分が西武国分寺線踏切の一段高くなった部分と判りました。

皆さんが散歩される時に、この高低差などの情報が参考になれば幸いです。



昔の用水の面影を残す並木町公園脇用水

美化活動拠点のご紹介：北町地域センター脇の用水路跡地

五日市街道の南北を流れていた砂川用水は、「昭和31年12月1日にこの用水路を使用していた砂川町外七市町村用水土地改良組合が解散したことに伴い、それまで新田飲み水として流れ続けた用水は、完全になくなりました。～中略～あと何年か後に、あの畑は何処に行ってしまったのでしょ



うしょう」とならないことを祈るばかりです。」（内藤豊三郎氏「国分寺村の用水路について」平成24年版より引用）と危惧されているように、五日市街道北側の流れは完全になくなりました。でも、水路跡は今でも確認できる状態です。妙法寺と国分寺市北町地域センターの間に右写真のように水路跡が残り、また北側の水路跡が敷地内にあるお宅では、きれいに水路跡が整備され残されているのが垣間見えます。道路に近い下流部（左写真）は、児童が遊べるよう水路護岸を削り平坦に作られ、このセンターを利用する利用者協議会の皆さんが花を移植し、左写真のように美しく咲いています。上流部はキバナコスモスの若芽がびっしりと覆い、次号が出る頃にはオレンジ色と緑のコントラストで華やかに彩られるでしょう。皆さんのお力もお借りして、様々な季節の草花を育て、皆さんと一緒に色彩豊かに花咲く“みんなで創る花園”としていきたいものです。



（6月末の水路跡に咲き誇る花々）

お分けいただける草花がお手元にあればお教えいただき、ここを大切に守ってゆきたいと思っています。

10月23日に親水施設で遊ぼう！！

国分寺市協働コミュニティー課市民活動センターに登録した市民活動団体が、毎年光プラザ全館とその脇の道路で市民活動フェスティバルを開催していましたが、昨年はコロナ禍で中止となり、今年は“（仮称）市民活動月間”として10月～11月に各市民団体が通常活動する場で、市民の皆さんと楽しい時間を過ごそうと計画しています。美しい用水の会では、10月23日（土）（雨天の場合24日）に並木公民館脇の砂川用水（右写真）で皆さんと一緒に水を楽しめる時間を過ごす計画です。



（ここで楽しい時間を過ごしましょう）

どのようなプログラムで楽しんでもいただけるかはこれから詳細を取り決めていきます。この場所は親水施設として造られ、その後さらに水と一層親しめるよう市と協議しながら当会が改修を行い、今では多摩川から流れ着いたと思われる小魚も時折見られるようになりました。今まで、児童と板舟競争・笹舟づくり・笹舟競争など企画し、大変楽しく遊んだ経験があります。この親水施設を、憩いの場としてどのようにつくり上げて行ったらいいかなどお話し合いができればいいとも思っています。また、四季折々の用水の情景や用水のお話しなどできるよう準備を進めていきます。詳細は、市報・公民館



（親水施設に流れる多摩川の水）

のポスター・チラシや美しい用水の会のホームページでお知らせします。この親水施設は、国分寺市の武蔵野台地上で多摩川の水が流れ、自然の水に触れることができる唯一の場所です。皆さんと水に親しみ、いつでも様々な方の色々な企画が実施できる場としたいと思っています。コロナ禍の中、これからの状況がどのように変化するかはわかりません。感染防止を十分行い、用水を身近に感じながらくつろげる時間を過ごしたいと思っています。お誘いあわせの上、皆さんでお越しください。

令和3年度の砂川用水美化活動予定

本年度は、用水の美化活動に一層力を入れ、皆さんの憩える空間を維持できるよう活動してまいります。実施場所は用水の状態によって変わりますので、詳細は「美しい用水の会」下記ホームページでご確認ください。

http://bunji-yosui.org/top_page/img/calendar.pdf

参加者募集

先人が守り続けてきた歴史ある砂川用水の流れを、草を刈り、花を植え、種を蒔き、いつもきれいに流れる用水路として、子どもたちが水に親しみ、誰もがほっとできる場にしましょう。そして、重要史跡である恋ヶ窪村分水を、市民の宝として保全していきましょう。美しい用水の会は、会員一人ひとりが国分寺の用水に関係する色々な活動、歴史の勉強、草花生育、イベント企画などを自由に行い、会員相互で各自の活動を支援しあう団体です。

年会費は¥500。 気軽に活動に参加いただくことを、心待ちしております。